私の曾祖母（87歳）は認知症です。

　祖父母と暮らすばばちゃんは、認知症と診断され2年。
以前は頻繁にばばちゃんたちを訪問していたのですが、コロナ禍のこともあって、最近は訪問する回数が減ってしまいました。

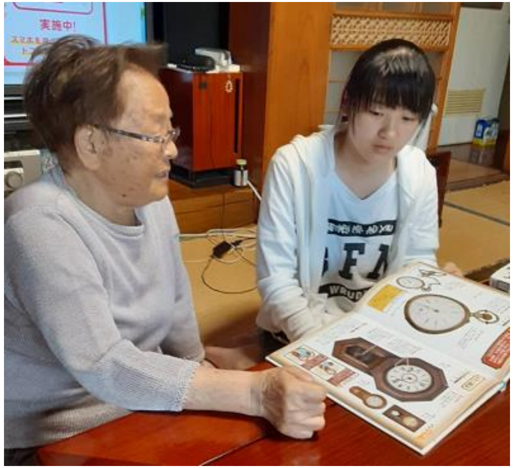
「すてきな　えっ☆ほん」
～私たちのユマニチュードを求めて～
山形県立谷地高等学校　家庭クラブ研究班

なぜ「失礼」
なのか考えて
みよう！

　高齢者に「絵本を読み聞かせする」という記事を読み、ばばちゃんに絵本の読み聞かせをしたいと考えました。
　でも、いったいどんな本が良いのでしょう？
　私は友人たちと、看護・介護・福祉の専門の方のもとを訪ねました。その中で「高齢者の方に読み聞かせは失礼かも」というこという意見もありました。

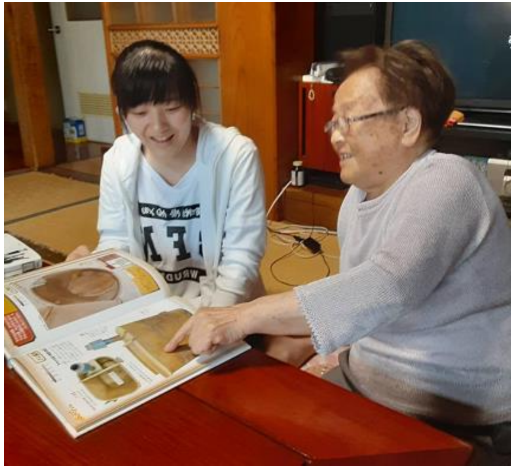
きっかけは、
「ばばちゃん！
何回言ったらわかるの！
　何回も何回も･･･」と
いう弟の一言でした。

私は、ばばちゃんが何に興味を持つのか、いろいろ試してみました。その結果・・・・・。



（1） 昔の道具に興味を持つばばちゃん!

（2） 突然生き生きと話し始めるばばちゃん!



（3）笑顔になるばばちゃん!

絵本を高齢者とのコミュニケーションツールとして活用したい！

どんな本が良いか？どういうスタイルが個人を尊重できるか？を考えました。

家族で作る「思い出絵本」はどうでしょう？

『聞き書き』を通して、もう一度、
その方の人生を一緒に振り返ってみます。

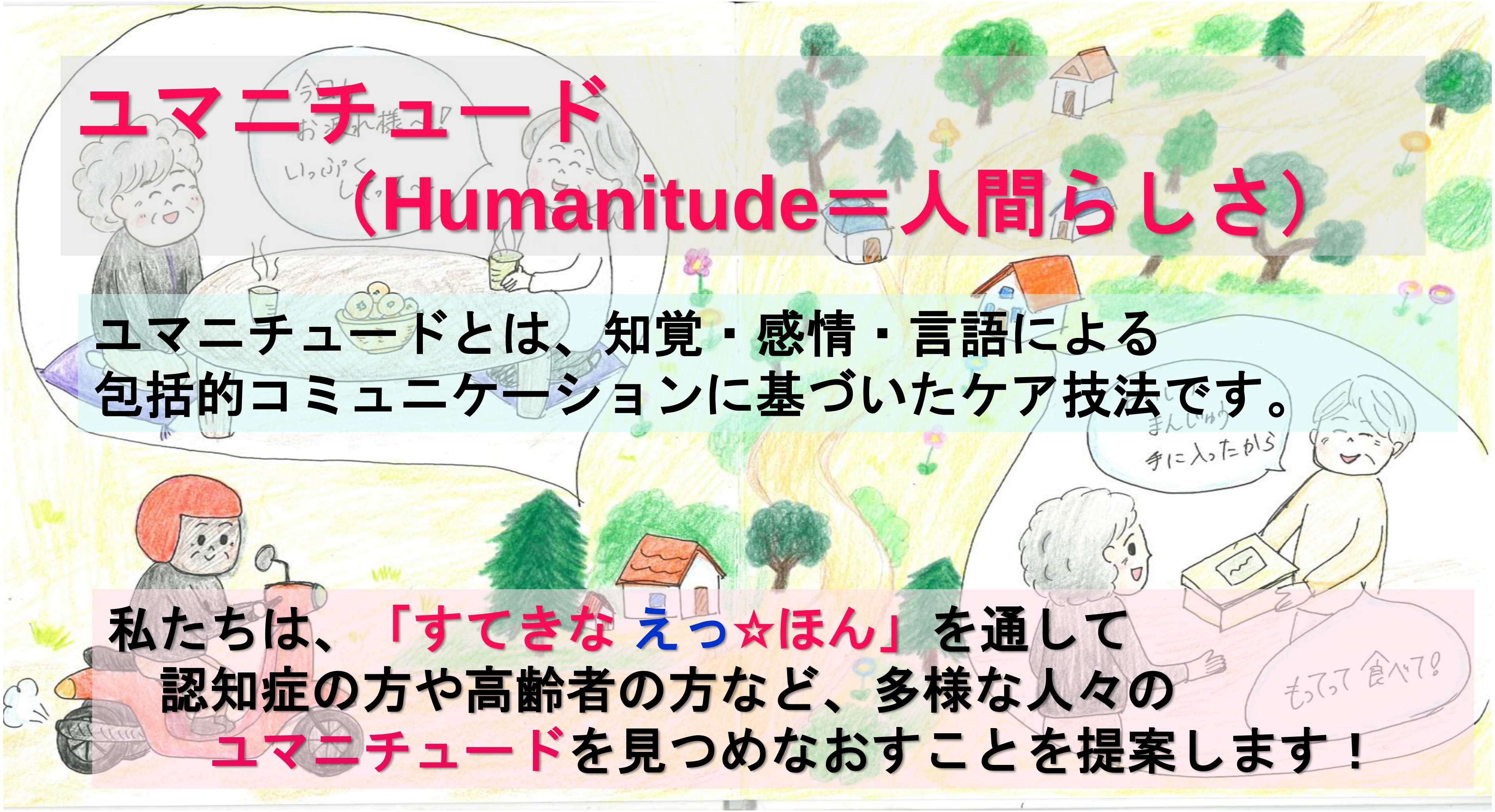
認知症の方には、
近所の方や親戚、友だちなど
いろんな方に取材し、
思い出話を語って
いただくのは
どうでしょう？

ばばちゃんは、
自分の作品を手に取ると、
思い出話を始めました。
認知症でも、その時のこと
を思い出して語り始めるの
です。

「忘れられる」ことは悲しいことです。ですが、「忘れていく」ことってどんな気持ちでしょう。

ばばちゃんの「思い出絵本」を作りました！」

ばばちゃんは「認知症」ですが、「認知症＝ばばちゃん」ではありません。
ばばちゃんをつくっているのは、８８年生きた「キクさんの歴史」です。



ユマニチュード（Humanitude＝人間らしさ）

ユマニチュードとは、知覚・感情・言語による
包括的コミュニケーションに基づいたケア技法です。

私たちは、「すてきな えっ☆ほん」を通して
認知症の方や高齢者の方など、多様な人々の
ユマニチュードを見つめなおすことを提案します！